

(2013年02月06日実施)

第19回 JOMF 特別企画セミナー開催のご報告 (記事スタイル)

2013年02月06日、東京医科大病院 臨床講堂において 第19回セミナーが開催された。題して『海外勤務者の感染症対策～デング熱などの最新情報も含めて』。東京医科大学病院渡航者医療センター『東京医科大学病院渡航者医療センター第7回実用セミナー』及び厚生労働省「我が国への侵入が危惧される蚊媒介性ウイルス感染症に対する総合的対策の確立に関する研究班」との共催での実施だ。

内容的には

1. 海外勤務者の感染症対策ABC
東京医科大学病院 渡航者医療センター 教授 濱田篤郎教授
2. 海外で蚊に媒介されるウイルス感染症
国立感染症研究所 ウイルス一部 室長 高崎智彦先生
3. 企業での海外感染症対策の実例
三菱重工工業長崎造船所病院 医長 宮城啓先生

という構成であった。



JOMF 倉林専務理事のご挨拶



司会は東京医科大学病院渡航者医療センターの福島先生

一参加者数は？

A: **125** 名の方からお申込みを戴き、**120** 名を上回る方に参加戴きました(共催であり、管理の方式が若干異なったりも、申込みなしの方も若干あった反面、前日から体調不良でご欠席という方も若干ありました)。申し込み締め切り時点での男女別では女性**61**名、男性**64**名、職種別では人事・総務・安全管理等の一般参加者が**67**名、医療関係者が**58**名でしたので、男・女、医療関係者・一般職比率は半々ということになりました。



臨床講堂は300人収容可能ですが、それでも多くの方にご参加いただきました。



一皆さんの発表内容は？

A: 【各講師発表内容(発表順)】

濱田先生:『海外勤務者の感染症対策ABC』と題して、海外に勤務する駐在員や海外への出張者の健康問題についての概説と、罹患しやすい病気について、更に、テーマである感染症対策について、A.衛生教育、B.予防接種、C.早期治療のABCの考え方についてご説明戴きました。

難しい話でも濱田先生の軽妙な語り口にかかるとなんとなく理解できたような気持ちになるのが不思議です。

濱田先生はまた、仕事や旅行で日本と海外を頻繁に行き来される方、今後海外赴任を予定されている方、これから海外旅行に行かれる方々に、最低限知っておいていただきたい旅の健康知識をe-learning方式(Q&A方式)で楽しく習得できるようにした同大学病院のHPについても言及され、『デング熱検定』についてを事例に引きつつ、その入り口画面を右下の写真にて紹介されています(<http://www.tra-dis.org/dengue/index.html>)。



東京医科大学病院 濱田先生



『蚊で移る病気編 デング熱検定』の説明風景



国立感染症研究所 高崎先生

高崎先生:『海外で蚊に媒介されるウイルス感染症』と題する講演で、『デング熱』や『チクングニア』のウイルスの解説や日本への輸入例、臨床症状、世界各国の発生状況などについて紹介され、次いで、ウエストナイル脳炎や日本脳炎、ダニ媒介性脳炎等の『脳炎を起こすウイルス』について発生数や臨床経過などについて、これまでの研究成果をもとに多岐にわたる解説をされていました。

また、黄熱についても解説がなされ、ワクチンの歴史についても触れつつ、黄熱汚染地域を持つ国名や今後のアルボウイルス感染症についての見通しなどについても触れられていたことが印象的でした。



日本への輸入感染報告

更に、これはデングやチクングニア、黄熱といったものに限定するものではありませんが、「世界の航空機ルート」が、世界各地に張り巡らされている中、この種感染症のウイルスがあつというまに世界に伝播する恐れもあるということから、最終スライドには「**Arbo Viruses are arriving in Centrair**」という(名古屋のものになっていましたが、最後の到着空港は **Narita** でも **Osaka** でもあり得る)ものになっていました。警戒を怠ってはいけないということです。



デング熱患者の発疹の症例が紹介された

宮城先生：『企業での海外感染症対策の実例』と題し、簡単な病院ご紹介(特に渡航外来を開設されていることから九州の渡航者も増えている)に続き、

1. 社員が利用する可能性のある現地病院(三菱重工さんは、プラント建設部隊が世界各地で活躍されていることから、デリーのような大都会だけではなく、辺境地とも呼べる都市や村の病院も含まれる)への医療事情調査実施報告、
2. 派遣された社員がかかりやすい(特にインドにおける)病気について、**A**型肝炎やデング熱、腸チフス、狂犬病の世界の発生状況、
3. 帰国後診療の問題点として、実際に入院が可能なものや、とりわけ夜間や土日対応できる施設が少ないこと、マラリアの治療薬などの『熱帯病治療薬保管施設』が、全国でわずか **25** か所しかないことなどについてお話戴きました。



三菱重工 長崎造船所病院
宮城先生

—セミナーが続きましたね？

A: そうですね。確かに。。。 共催セミナーが二つもあったとはいえ、**1**月**11**日の大阪でのセミナー(昨年**7**月のメンタルヘルスセミナーの大阪展開版)に続き、今度は **25**日にシンガポールでの日本人会との共催メンタルヘルスセミナーがありました、折角シンガポールに行くのでそれに引掛けた形でプノンペン(カンボジア)、ホーチミン(ベトナム)への医療機関訪問出張(今年**10**月の情報交換会の講師依頼も!)があり、ホーチミンから夜間便で帰国した**2**月**2**日からわずか**4**日後に開催されたのが、今回のセミナーでしたので、基金の倉林専務(主にシンガポール)や澤田課長(主にこのセミナー)の支援が無ければ今回の実施はできなかったのではないかと考えています。その意味で社内的にお礼をここに書くのも変ですが「ありがとう」と感謝したい気持ちです。



会場では、積極的な Q&As シーンも見受けられた

—最後にひとこと？

A: このセミナーの前日、**2**月**5**日には、航仁会渡航医学センター西新橋クリニックの医療関係者勉強会が開催され、基金からも専務のほかに槻谷部長と私がそれぞれ「インドネシア洪水」、「中国の大気汚染」についての発表があつたりして、その資料(現地ネット情報の検索と翻訳、現地派遣している企業の方たちからの情報提供をまとめたもの)作りで、1月正月明けから深夜作業が続きへとへとです。少し温泉にでも浸かってゆっくりしたいなと言うのが正直今の気持ちです。

とはいえ、**5**月に入れば、北京でのメンタルヘルスセミナー(講演)、上海でのコーチングセミナー(主催)、福岡での精神神経学会のトピックフォーラム(講演)、と三つのイベントが同じ月の中でまた連続してしまいますので、今からまた年度が替わってもバタバタとすること間違いなしか、と半分諦めています:苦笑